

農業者に対するアンケート調査

日頃より、住みよい村づくりのためにご協力とご参加をいただき、ありがとうございます。

本村の農水産業は、狭小な農地でありながら花さや熱帯果樹を中心に多種多様な農産物が生産され、水産業においてもモズク、海ブドウ、アーサの養殖が行われています。中でもパッションフルーツは特別栽培認定を取得し、小菊、パッションフルーツ、アデモヤ、切葉（ドラセナ）、モズク、海ブドウ、アーサが拠点産地に認定されています。これらを活用し、農水産物直売所「おんなの駅 なかゆくい市場」を中心に地産地消の推進を図り、一定の成果を得ています。しかし、学校給食や村内に数多く立地している宿泊施設等での村内産農水産物の利用率は依然として低いことから、村内産農水産物の安定供給及び消費拡大を図る必要があります。

このため、営農の状況や今後の意向等を把握するために、農業従事者の皆様にアンケート調査を実施することとなりました。

アンケートでお答えいただいた内容については、すべて統計的に処理し、本調査以外では使用せず、お答えいただいたみなさまにご迷惑をおかけすることは一切ございません。お忙しいところ恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、回答にご協力くださいま

すようよろしくお願い申し上げます。

平成30年1月

恩納村長 長浜 善巳

あなたご自身のことについてお聞します

①性別	1. 男性	2. 女性		
②年代	1. 10歳代 5. 50歳代	2. 20歳代 6. 60歳代	3. 30歳代 7. 70歳代	4. 40歳代 8. 80歳代以上
③お住まいの地域の自治会	1. 名嘉真 5. 太田 9. 富普 13. 真栄田	2. 喜瀬武原 6. 恩納 10. 前兼久 14. 塩屋	3. 安富祖 7. 南恩納 11. 仲泊 15. 手加地	4. 瀬良垣 8. 谷茶 12. 山田
④農業経営の後継者の有無	1. いる ↓	2. いない		
④で「1. いる」と回答した場合の後継者の年代	1. 10歳代 5. 50歳代	2. 20歳代 6. 60歳以上	3. 30歳代	4. 40歳代

資料1 アンケート調査票

(1) 農業者に対するアンケート調査票

所有している農地についてお聞します

問1 あなたが所有している農地の面積はどのくらいですか。下記の表にご記入ください。(1a=100㎡≒0.1反)

なお、所有している農地以外に借入地がある場合もご記入ください。

項目	自作地	借地	貸付地
田	a	a	a
畑	a	a	a
うち、施設園芸	a	a	a
樹園地	a	a	a
うち、施設園芸	a	a	a

作物についてお聞します

問2 あなたが主に栽培しているものは何ですか。

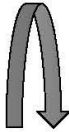
あてはまる番号にすべて○をつけ、主に営んでいる作物名などをご記入ください。

1. 水稲	()
2. 野菜 (主な作物名)	()
3. 果樹 (主な作物名)	()
4. 花き (主な作物名)	()
5. 観葉 (主な作物名)	()
6. 畜産 (主な飼養家畜名)	()
7. その他 ()	()

問3 主な農産物(販売額が最も大きな作物)の主要な出荷先はどこですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. JA 恩納
2. 組合等
3. おんなの駅
4. 地域の共同売店
5. 大手小売店などの契約販売
6. 食品製造業や外食産業などの食品企業との契約販売
7. インターネットによる産直販売
8. その他 ()

裏面へ続く



問4 今後、導入したい作物又は、家畜があればご記入ください。
あてはまる番号にすべて○をつけ、具体的な作物名又は家畜名などをご記入ください。

1. 水稻

2. 野菜（主な作物名）

3. 果樹（主な作物名）

4. 花き（主な作物名）

5. 観葉（主な作物名）

6. 畜産（主な飼養家畜名）

7. その他（）

農地についてお伺いします

問5 あなたはどのような土づくりをしていますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 化学肥料

2. 混合（化学肥料＋有機栽培）

3. 有機栽培（堆肥を含む）⇒ 問5－1

4. その他（）

問5で「3. 有機栽培（堆肥を含む）」と回答した方に伺います。
問5－1 その作物は何ですか。具体的な品目をご記入ください。

問6 あなたは「減化学肥料・減化学農薬」を一体的に行う「有機栽培」又は「特別栽培」に取り組んでいますか。

1. すでに有機栽培又は特別栽培による農産物の生産を行っている ⇒ 問6－1

2. 有機栽培又は特別栽培に取り組んでみたい⇒ 問6－1

3. 有機栽培又は特別栽培に取り組む予定はない

問6で「1. すでに有機栽培又は特別栽培による農産物の生産を行っている」及び「2. 有機栽培又は特別栽培に取り組んでみたい」と回答した方に伺います。
問6－1 その理由は何ですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 農業が持つ自然循環機能を活かした農業生産をしたいから

2. 土づくりにこだわりの持った生産をしたいから

3. 環境に対する関心が高まり、環境に配慮した生産が必要だから

4. 消費者の食の安全・安心に対するニーズが高まったから

5. その他（）

【有機栽培の規格の要約】
化学処理した肥料や農薬、農業資材を使っておらず、そのようなものが周辺から流入しない処置がされている。更にこの状態が3年以上続いていること。

【特別栽培の定義】
使われている化学肥料と農薬の量が、その農産物で通常使われる量の半分以下であること。

3

農産物の販路についてお伺いします

問7 新鮮で安全な農産物を生産し、地域の宿泊施設や飲食店等に卸してみたいと思いますか。

1. 思う

2. 思わない

3. 既にやっている

問8 新鮮で安全な農産物を利用した商品の開発に取り組んでみたいと思いますか。

1. 思う

2. 思わない

3. 既にやっている

問9 新鮮で安全な農産物を生産し、学校給食に提供したいと思いますか。

1. 思う

2. 思わない

3. 既にやっている

地域の農業の今後についてお伺いします

問10 あなたは農業を存続していく上で、何が重要であると考えますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 農業就業者の確保・育成

2. 農地の集約による農業生産性の向上

3. 遊休農地の活用

4. 農業栽培技術の向上、又は確立

5. 農業機械や施設の整備

6. 営農相談の充実

7. 村民の理解と協力

8. 学校給食センター、宿泊施設や飲食店など地域の事業所などとの連携

9. その他（）

問11 恩納村の農産物の地産地消を進める上で、何が重要だと思いますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 宿泊施設や飲食店、製造業など、地域の事業所における販路開拓

2. 学校給食での恩納村産農産物の活用

3. 農地の拡大による生産量の増加

4. 農業栽培技術の向上による生産量の安定

5. 年間を通じた計画的な生産

6. トレーサビリティーシステム（生産流通情報把握システム）※の導入

7. その他（）

※トレーサビリティー（生産流通情報把握システム）とは、
食品等の生産や流通に関する履歴情報を追跡・溯及することができる方式。生産者や流通業者は、媒体（バーコード、ICタグ等）に食品情報を集積するなどし、それを消費者等が必要に応じて検索できるシステム。これにより、食品事故発生時の早期原因究明や生産者と消費者の「顔の見える関係」の構築が期待される。
ご協力ありがとうございます。

記入して頂いたアンケート用紙は同封の返信用封筒（切手不要）に入れて
2月13日(水)までに郵便ポストに投函してください。

4

58

(2) 村内事業所に対するアンケート調査票

貴社の食材における仕入れについてお伺します

問1 恩納村産の農水産物を食材として仕入れていますか。

1. 仕入れている2. 仕入れていない

問1で1. 仕入れていると回答した方に伺います。

問1-1 恩納村産の農水産物はどのようなものを、どのような視点で仕入れていますか。

農水産物名	視 点
(記入例) 海ぶどう	地元産の海ぶどうを提供することで、お客様に喜んでもらえるから
1	
2	
3	
4	
5	

問1で2. 仕入れていないと回答した方に伺います。

問1-2 恩納村産の農水産物を仕入れていない理由は何ですか。あてはまる番号にすべてOをつけてください。

1. 必要な農水産物が生産されていないから

2. 生産量が少ないから

3. 安定的な供給体制が整っていないから

4. 系列会社のネットワークで、仕入れ先が決まっているから

5. その他 ()

村内事業所に対するアンケート調査

日頃より、住みよい村づくりのためにご協力とご参加をいただき、ありがとうございます。

本村の農水産業は、狭小な農地でありながら花きや熱帯果樹を中心に多種多様な農水産物が生産され、水産業においてもモズク、海ブドウ、アーサの養殖が行われています。中でもパッションフルーツは特別栽培認定を取得し、小坂、パッションフルーツ、アデモヤ、切葉（トラセナ）、モズク、海ブドウ、アーサが拠点産地に認定されています。これらを活用し、農水産物直売所「おんなの駅 なかゆくい市場」を中心に地産地消の推進を図り、一定の成果を得ています。しかし、学校給食や村内に数多く立地している宿泊施設等での村内産農水産物の利用率は依然として低いことから、村内産農水産物の安定供給及び消費拡大を図る必要があります。

このため、本村で生産されている農水産物の利用状況や、今後の意向等を把握するために、本村で事業活動を行っている宿泊施設・飲食店・小売店等の皆様にアンケート調査を実施することとなりました。

アンケートでお答えいただいた内容については、すべて統計的に処理し、本調査以外では使用せず、お答えいただいたみなさまにご迷惑をおかけすることは一切ございません。お忙しいところ恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、回答にご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成30年1月

恩納村長 長浜 善巳

差し支えなければ、貴社についてご記入ください。

社名	
担当部署名	
記入された方	
所在地	
業 種	

59

1

2

問1で「2. 仕入れていない」と回答した方に伺います。

問1-3 どのような条件が揃えば、恩納村産の農水産物を仕入れたいと思いますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. ニーズに即じた農水産物の生産
2. 農水産物の生産量の拡大
3. 安定的な供給体制の確立
4. 販売価格の安定
5. 農水産物の品質の確保
6. 一次加工された農水産物の提供
7. トレーサビリティー（生産流通情報把握システム）※の導入
8. その他（ ）

問2 貴社で食材として仕入れている農水産物は何ですか。主要10品目をご記入ください。

(年間の仕入れ量は概算で結構です)そのうち、恩納村産の仕入れ量はどのくらいですか。

品 名	年間仕入れ量 (t)	恩納村産の年間仕入れ量 (t)
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

※トレーサビリティ（生産流通情報把握システム）とは、

食品等の生産や流通に関する履歴情報を追跡・溯及することができる方式。生産者や流通業者は、媒体（バーコード、ICタグ等）に食品情報を集積するなどし、それを消費者等が必要に応じて検索できるシステム。これにより、食品事故発生時の早期原因究明や生産者と消費者の「顔の見える関係」の構築が期待される。

3

問3 仕入量が不足する農水産物がありますか。

1. ある
 2. ない

問3で「1. ある」と回答した方に伺います。

問3-1 仕入が著しく不足する農水産物は何ですか。また、その時期はいつですか。

[illegible]

問4 仕入れ量が減少する理由は何ですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 農水産物の供給量が足りない
2. 農水産物はあるが、価格が高騰している
3. 自社の規格にあう農水産物がない
4. その他（ ）

問5 貴社で食材として使用している農水産物は、特にどのような理由で仕入れ先を決めていますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 商店や問屋など特定の取引先で決めている
2. 自社の規格にあうかどうかで決めている
3. 安定供給ができるかで決めている
4. 栽培農家と契約している
5. 農水産物の価格で決めている
6. 農水産物の品質で決めている
7. その他（ ）

4

問6 貴社が食材として使用している農水産物は、通年同じ仕入先ですか。

1. 通年、同じ仕入先
2. 状況に依りて異なる

問6で「1. 通年、同じ仕入先」と回答した方に伺います。

問6-1 主な仕入れ先はどこですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 契約栽培農家から仕入れている
2. 同じ市場から仕入れている
3. 荷社から仕入れている
4. 卸問屋から仕入れている
5. その他（ ）

問7 食材として輸入農水産物を使用していますか。

1. はい
2. いいえ

問7で「1. はい」と回答した方に伺います。

問7-1 輸入農水産物を使用する理由を教えてください。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 安定的な量が確保できるから
2. 価格が手ごろだから
3. 自社の規格にあっているから
4. 品質が良いから
5. その他（ ）

問8 貴社で使用している農水産物は、規格（色、形、長さなど）、栽培方法（減農薬低化学肥料栽培、有機農法など）に基準はありますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 規格に基準がある
2. 栽培方法に基準がある
3. 基準はない
4. その他（ ）

問8で「1. 規格に基準がある」と回答した方に伺います。

問8-1 どのような規格の基準がありますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 色
2. 形
3. 重さ
4. 長さ
5. その他（ ）

問8で「2. 栽培方法に基準がある」と回答した方に伺います。

問8-2 どのような栽培方法ですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 特別栽培
2. 有機栽培
3. その他（ ）

食材の産地表示やメニューについてお伺いします

問9 恩納村産の農水産物を利用した食品を消費者に提供する際に、恩納村産の食材を利用していることを商品やメニューに表示することは可能ですか。

1. 既に表示している
2. 検討している
3. 考えていない

問10 恩納村産の農水産物を利用した商品やメニューを提供したいと思いませんか。

1. 既に提供している
2. 検討している
3. 考えていない

問11 生産者と貴社のような宿泊施設、外食産業、食品流通業などの企業と連携を図り、生産・流通・販売を一体として進める契約栽培を推進していくべきだと思いますか。

※契約栽培とは、生産者があらかじめ業者等と品質、規格、価格等を取り決めて栽培を行うこと。

1. 現在実施している
2. 現在実施を考えている
3. 今後検討したい
4. 考えていない

問12 生産者と貴社のような宿泊施設、外食産業、食品流通業などの企業と連携を図り、新たな製品や販路、ブランドの創出を推進していくべきだと思いますか。

1. 現在実施している
2. 現在実施を考えている
3. 今後検討したい
4. 考えていない

問13 生産者と貴社のような宿泊施設、外食産業、食品流通業などの企業と連携を図り、販売価格の一部を安全・安心な生産環境の整備等の基金として活用すべきだと思いますか。

1. 現在実施している
2. 現在実施を考えている
3. 今後検討したい
4. 考えていない

問14 その他、恩納村で農水産物の地産地消を進めることについて、ご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございます。

記入して頂いたアンケート用紙は同封の返信用封筒（切手不要）に入れて

2月13日(火)までに郵便ポストに投函してください。

資料2 県内事例の視察【名護市山田集落「やんばる朝市」】

（1）視察・ヒアリング日時

平成30年2月23日（金）8:30～10:00

（2）やんばる朝市の概要

平成21年より、やんばる朝市かあちゃんの会が中心となり、毎週金曜日の朝9時より、名護市山田集落センターにて朝市を開催している。毎週20～30名の農家が出荷し、北部のホテルや飲食店の料理人や仕入れ担当者が直接買い付けに来る。ホテルや飲食店のシェフ達から成るやんばる料理研究会が、この朝市を支援している。

（3）やんばる朝市の運営方法

- ・8:30～生産者が納品・陳列（値札をつける）
- ・8:45～業者担当者が品定めを行う
- ・9:00～取引開始（業者担当者は購入したい商品に自社の名札を置く）

※価格交渉なし

購入が決まり次第、生産者が請求伝票を記入

※当日納品分の売上額を、次週の朝市にて現金で回収する

- ・9:30 積荷後、朝市終了



（４）ヒアリング（やんばる朝市かあちゃんの会：金城美代子会長）

・なぜ朝市を始めようと思ったか。

→朝市を始めるまではＪＡへ出荷することがほとんどだったが、手数料等を引かれると農家の収入は少なくなるため、所得向上を目指して朝市を始めた。料理人やホテル等の調達人が直接仕入れに来る。朝市を始めて今年で９年になり、所得向上は予想を上回っている状況である。台風が来て１週間生産できなければ、１ヶ月収入がない状態となる。１ヶ月生産が遅れると３ヶ月収入がなく、３ヶ月遅れると半年収入がない状態となる。農家はこれまでそのようにやってきた。この朝市は行政の力を借りず、自分達で運営している。行政を利用することは構わないが、それぞれの農家が頑張れば行政に頼る必要はない。新鮮な野菜を売って儲かることが農家にとって一番良い。

・現在、この朝市ではどのような業者が参加しているか。

→１社のホテルでも数箇所のレストランが購入に来ることもある。飲食店からも来る。大量に購入される場合は、注文を受け付けている。今日は試供として半値での販売もみられた。

・朝市に出している農家は何名くらいか。

→登録している方が３０～３５名いて、毎週出品する方が２０名程度である。常時来ている方は年間５,０００円、時々来る方は場所代として２００円を徴収している。特に運営費がかかるわけではないが、交流会や勉強会に使用している。会長費等の人件費は取らず、ボランティアで行っており、そうでなければ続けられないと思う。お互いで協力し合って、会場のセッティングを行っている。専業農家や退職後に農業をしている方が多く、あたいレベルの方はほとんどいない。年齢は若い方も８０歳以上の方もいる。また、以前は朝市に来ていたが、今はホテルと直接取引している農家もいる。農家が儲かるなら、直接取引に移行しても問題ない。

・生産者を受入れる時、選定しているか。

→農家は誰でも受入れている。ただし、スーパーで売れ残ったものを持ってくる方には新鮮な野菜を持ってくるよう指導している。時期になったらパインやマンゴー農家も出品する。

・朝市を始めるとき、業者のニーズを確認してから朝市に出荷する農産物の生産を始めたか。それとも、あるものを販売するという形で始めたか。

→最初はあるものを買っていただいていた。“ないものねだりでなく、あるものからスタートする”ということで始めた。ホテル側は季節はずれの作物も要求してくるが、「旬のものは旬の時期に買ってください」と話し、あるものを購入していただいている。売れ残った場合、各農家が農連やファーマーズ、羽地の道の駅等へ出荷しているため、心配は無い。専業農家はほとんど協同青果へ出荷し、無駄な動きはしないようにしている。

・いろいろな生産物が出荷されているが、生産物がかぶらないように住み分け等を行っているか。

→どの品種を生産するかは管理していない。各自が自信があるものを出している。自己責任でやってもらっている。

- ・見たことが無い野菜もあった。ホテルから注文があるものだけを出しているのか、それとも各農家が生産しているものを出しているのか。

→最近珍しい作物も増えてきているが、それぞれの農家が考えて出している。それに合わせて、ホテルはメニューを検討しているらしい。

同じ作物でも生産者によってこだわりがあり、味が異なる。この朝市では“旬”のものを売ることが売れるコツである。作物によって“旬”のサイズは異なり、大きいから良いとは限らず、硬くなっていることがある。今週売れなかったからと、来週また出しても売れない。“旬”のものを通常より値段を上げて売っている。農家もプロであるが、買う側も料理のプロであることを意識している。苦情は私（金城会長）が受付けている。「野菜が硬かった」という意見があったり、売れ残りが続くようであれば、味見している。そのときには、水をかけるのが遅れた等、何かに問題がある。暑くなってくると水分との戦いであり、苦味やえぐみが出てしまう。勉強会でも話し合いながら進めている。大きさや価格だけでなく、質が求められる。

「これは私しかできない」というものを、それぞれが勉強して工夫しながら作っている。一人一人にこだわりがある。

- ・勉強会はどのくらいのペースで行っているか。

→問題があれば、朝市終了後に集まって話し合いをしている。年に2回ぐらいである。今は特に問題は無い。

- ・野菜が少ない時期はどうしているか。

→台風が連続する時は厳しく、少なくなることはあるが無くなることはない。「ファーマーズには無いが、朝市は結構ある」と言われる。ハウス栽培を行っている方もいる。また、回転が速いため、次から次へと生産しており、作物が何も無いということはない。今日は安い価格でも出していたが、農家の野菜は台風が来ると、B級品やC級品も関係なくA級品の価格で売れる。試供としての価格にするか、季節を考慮して高くするか安くするか、農家自身で自分が出荷する作物の価格を決めている。“自分が作った野菜を自信を持って出荷すること、鮮度のよい野菜を出荷すること”がこの朝市の強みである。

- ・農薬に関して規制や指導を行っているか。JAに出荷する際には、使用した農薬の種類と使用した時期を事前に申請しなければならず、出荷したくてもできないことがある。

→農薬に関しては私（金城会長）が指導している。虫が出た場合は何を使用したらよいか、畑に行って確認しながら、出荷までの時期も考慮してアドバイスしている。葉野菜についてはきれいに保つための提案もしている。農薬が白く残っている場合は出品させていない。全体の責任になるため厳しく管理しており、品質向上のために常に勉強している。この朝市ではJAよりも厳しくチェックしているかもしれない。納品時に1つでもかたつむりが付いていた場合、その作物は全て持ち帰ってもらい、出品させていない。

- ・朝市を始めて以来、右肩上がりで進められているか。

→出荷表で管理しており、それによると現在の売上げは年間1人300万円近く、全体では8,000万円程度である。

・輪島や飛騨高山の朝市では、野菜だけでなく、海産物や味噌、しょう油等の加工物等、いろいろな物がある。やんばる朝市では野菜に限定しているのか。

→限定しており、生ものは一切禁止している。ホテルや飲食店が来ているため、もし生ものを販売して食中毒が起こった場合、誰が責任を持つか。例えば、サーターアンダギーを販売したいという方もいたが断った。野菜農家だから野菜を売るようにしている。農家は一次産業で頑張らなければ、六次産業にも繋がっていかない。この朝市のかたち以外は考えていない。

・後継者育成のために、特別に取り組んでいることはあるか。

→青年育成を兼ねて個人的に若い子達を支援している。農業が全くわからないという場合には勉強会を行い、育てている。今、若い人が3人いる。うち1人は高校卒業後5年間、家から出ていなかったが、農業しながら外に出るようになった。今では自分で野菜も売り、農連にも持っていく。やりたくても誘いがなければできない方もいる。県外から帰ってきて、祖父母の土地を使って葉野菜を作っている子もいる。若い人の方が年収が高いという状況もみられ、従業員を雇っている若い人もいる。育てるというよりは、自分たちも勉強しながら進めている。若い人は大歓迎である。若い人達は先輩方の指導を受けながら、自分でもネットで農薬の使い方等を調べて頑張っている。

・転職して農業を行っている人にとって、売れる場所があれば頑張れる。おんなの駅ができたおかげで売場所が確保できて助かっている。

→売場所があるということは本当に良い。

資料3 恩納村地産地消推進計画策定委員名簿

	氏 名	所 属	備 考
1	やましろ まさみ 山城 正巳	恩納村漁業協同組合	代表理事 組 合 長
2	やすむら しょうこ 安村 祥子	恩納村商工会	事務局長
3	たましろ ともし 玉城 智司	恩納村GM会	会 長
4	よ ぎ しげいち 与儀 繁一	株式会社ONNA	専 務
5	う え しろ やすひで 宇江城 安秀	J Aおきなわ恩納支店	支 店 長
6	よしだ けんし 吉田 兼師	恩納村地域農業振興推進 連絡協議会	会 長
7	い さ がわ せいさく 伊差川 盛作	恩納村区長会	会 長
8	き く や ま もりよし 喜久山 守良	恩納村農業経営アドバイザー	
9	うちま じんしゅん 内間 仁 春	恩納村観光協会	事務局長
10	いしかわ つかさ 石川 司	恩納村学校教育課長 給食センター長	
11	ひ が かずのり 比嘉 和智	学校給食センター係長	
	さ ど や ま やすまさ 佐渡山 安正	農林水産課 課長	事務局
	きんじょう まさみち 金 城 正道	農林水産課 農林係長	事務局
	い さ しょう ご 伊佐 章 吾	農林水産課 農林係	事務局